

けながら通過する。このあたり、ちょっと雰囲気がいい。次の5m滝はどまん中を直登。水が多ければこんな芸当はできない。もっとも左右どちらも簡単に登れる。沢幅もせまくなってきた。もうこの沢も終わりだ。急なナメを登りきると岩の間からしみ出す水が水源となっていた。14時50分。ここから右手尾根上めざしてやぶをこぐ。尾根上にはわずかだが踏跡があった。 (記)

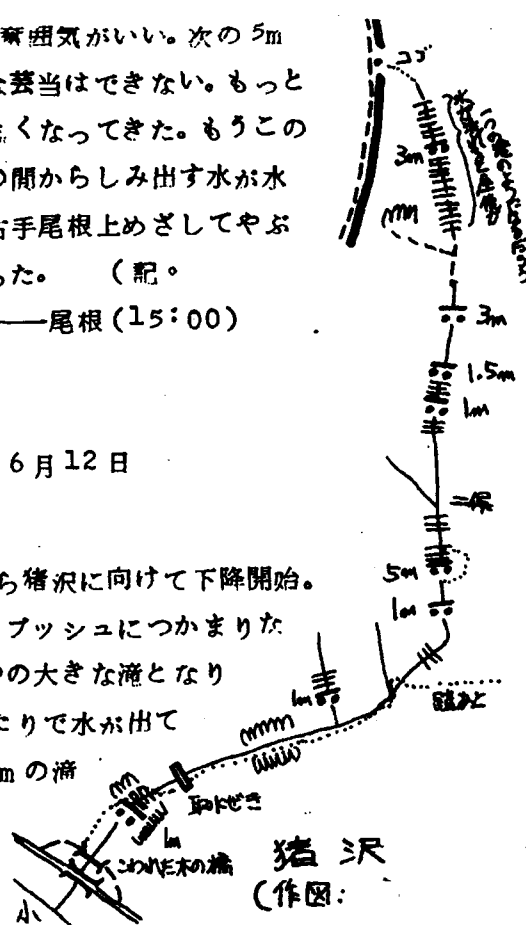
出合(14:15)——沢終了(14:45)——尾根(15:00)

猪沢(下降)

1982年6月12日

標高約860mの小ピークまで登ってから猪沢に向けて下降開始。すぐにカレ沢に出る。急な岩場の下りで、ブッシュにつかまりながら下る。雨が降って水が流れると、一つの大きな滝となりそう。傾斜がゆるやかとなってきたあたりで水が出てきた。ナメと小滝が出てくるが平凡だ。5mの滝を越えると、沢の切れこみが深くなってきたが、単調さは変わらない。踏跡も出てきた。左岸の小尾根から下ってきて、沢ぞいにずっと続いている。どうもこの沢はずれのような。16:25取水口に着く。沢の中を鉄管を通して水を引いている。どこへ引いていくのかは確かめなかった。16:30こわれた旧国道の橋の下をくぐり、13号国道に上がる。 (記)

下降開始(15:10) 二俣(16:05) 13号国道(16:30)



西川右俣右沢(下降)

1982年5月26日

L

下りはじめるとすぐ水が出てきた。ナメ状となっている。次々と支沢を合わせ、小滝を越えてゆく。下ってゆくうちに、右岸に鉱道あとがあった。ここで何をほっていたのだろうか。更に小滝をいくつか越えてゆくと4mの滝に出た。両側が岩壁